

## 第1回由良川大規模内水対策部会 議事概要

日時：平成30年9月27日（木）14:15～15:00

場所：福知山市消防防災センター 2階研修室

### 【出席者（順不同）】

福知山市 大橋市長

綾部市 山崎市長

気象庁 瀧京都地方気象台長

久内福知山河川国道事務所長

（以下、代理出席）

舞鶴市 堤副市長（多々見市長代理）

宮津市 山根建設部長（城崎市長代理）

京都府 木村中丹東土木事務所長（藤森建設交通部長代理）

### 【マスコミ】

読売新聞、京都新聞、両丹日日新聞、日刊建設タイムズ

関西テレビ放送、朝日放送テレビ、毎日放送テレビ、読売テレビ

### 議事1：規約の改正（案）（資料-1）

#### ＜福知山市＞

- ・ 第2条の目的で、下流部・中流部の内水に係る浸水被害の軽減対策の立案・実施とあるが、水位計の情報や排水ポンプの稼働状況など住民の避難判断材料として必要な情報提供も含めて検討していくと考えればよいか。

#### ＜事務局＞

- ・ ソフト対策についても本部会で議論していければと考えている。

#### ＜綾部市＞

- ・ 綾部市：内水対策は重要であり、本部会の設置については賛成である。これまで減災対策協議会で議論してきた堤防整備や河道掘削等については、減災対策協議会で議論し、内水に特化したものを本部会で議論するという理解でよいか。また、上流にある大野ダムについて、その運用やダム再生事業等の議論が四国の肱川等をきっかけとして全国的に行われてきているが、そのあたりも含めて議論していくのか。

#### ＜事務局＞

- ・ 事務局：連続堤や輪中堤、河道掘削等は進めているが、本川の水位が下がることで樋門の操作時間を短くし内水被害を軽減させるという観点から堤防整備や河道掘削についても内水対策の議論に包含されると認識している。大野ダムについても本川水位を下げる効果が内水対策に寄与することになるため、本部会で議論の対象となると考えている。

## 議事 2：内水による浸水被害の課題（資料-2）

- ・ 質疑応答なし

## 議事 3：今後の進め方（資料-3）

- ・ 質疑応答なし

## 議事 4：各機関からの情報提供（資料-4）

### <福知山市>

- ・ 輪中堤などの堤防整備により、多くの樋門が設置された。堤防整備により由良川の外水による浸水被害は大きく軽減されたが、近年では堤内地における豪雨による内水により床上等家屋浸水被害が発生している状況である。
- ・ 平成 29 年台風 21 号と平成 30 年 7 月豪雨の 2 年連続で大きな浸水被害が発生した中で、例として大江町公庄・河守地区の内水被害軽減対策が課題と考えている。
- ・ 対策を考えていく上で、内水被害発生メカニズムを分析して、雨水排水系統や貯留機能、あるいは強制的な排水方策等について、総合的な対策を検討していく必要があると考えている。
- ・ また、由良川の右岸地域においても、内水により床上浸水等が発生しており、内水被害軽減の検討が必要だと考えている。
- ・ 今後の対策については、排水ポンプ車の適切な運用とそれを可能とするピットを含めた施設整備、水位計等の設置を含めた市民のみなさまへの情報提供などのソフト対策と避難経路の確保、貯留施設の確保や強制的な排水施設の整備検討が必要である。
- ・ 中長期的な対策として、今後も過去に経験したことがない大規模出水が想定されることから、由良川水系河川整備計画の見直しや大野ダムの貯留容量の拡大や操作規定の見直しの検討、由良川沿川市における貯留施設の検討が必要であり、国と府と沿川市が役割を分担して、整備方針をしっかりと決めていく必要がある。

### <綾部市>

- ・ 市街地の雨水が集中的に増える可能性がある中で、綾部市では特に延町の古川樋門周辺が大きな課題となっており、平成 25 年以降に何度も内水による床上浸水が発生している状況である。
- ・ 対策としては、短期・中期・長期に分けて内水対策の整理を行い、平成 27 年度に「雨水対策基本計画」を策定した。現在、これに従って、整備を進めている。
- ・ 短期では、仮設排水ポンプの設置を行うとともに、昨年度に排水ポンプ車を 1 台配置した。府や国でも排水ポンプ車を配備されているが、幹線道路が冠水するため、事前の前進配備の検討をお願いしたい。
- ・ 中期的な対策としては、常設の排水ポンプ場の整備を検討しており、今年には用地買収や本体建設工事に着手することとしている。

- ・ 長期的には、時間雨量 50 ミリを超える時代になっており、まちの排水路の構造や設計が対応していない。どこまでお金をかけるのか難しい判断であるが、雨水排水路の改修も必要と位置付けている。
- ・ 気象状況が変化する中で、大野ダムの運用について見直しが必要で、市民からも要望が出ている。事前放流によるダム水位の低下や堆積土砂の除去などによる本川水位低下の効果についての議論もお願いしたい。

### ＜舞鶴市＞

- ・ 舞鶴市は下流部に位置するが、輪中堤等の整備により由良川の外水による浸水被害は大幅に削減されて事業効果は大変大きいですが、昨年、今年と内水による床上浸水家屋が発生しており、内水対策をしっかりとやっていかなければならないと考えている。そういう中で、今年の 7 月豪雨以降、国による排水ポンプ車の前進配備を行っていただき地元も喜んでいる。
- ・ 内水による課題は 2 つあり、床上浸水被害を如何に軽減するかということ、また、経済活動や市民生活を支える国道、府道の幹線道路が冠水によって通行止めとなることである。
- ・ 対策としては、排水ポンプ車による効果の検証等の内水対策を国と府と連携しながら行っていきたい。また、市としては、雨水対策の事業手法や財源等についての検討に取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 道路冠水を簡単に解消することはできないので、タイムラインなどを作成ししっかり周知を図っていく必要がある。
- ・ 舞鶴市としては、水位情報の把握が十分にできていないことや内水氾濫の危険度がどの程度かわかっていないこともあるため、住民周知や危険の回避に向けて、過去の浸水状況等を踏まえながら、由良川流域全体の降雨による浸水予測のシミュレーションモデルの開発を検討していただきたい。

### ＜宮津市＞

- ・ 宮津市では、由良地区が標高 10m 以下の低い土地となっており、平成 16 年台風 23 号では床上床下浸水が発生した。この地区に関する治水計画がしっかり示されていないが、外水と内水の対策が必要と考えている。
- ・ 河川整備計画の見直しに向けて、堤防整備か宅地嵩上げかわからないが、堤防整備により外水氾濫を防ぐ場合にはこの地区の内水対策をあわせて検討していただきたい。
- ・ 由良川整備計画に合わせて、宮津市でも由良地区の雨水排水対策を進めていくこととしており、計画の整合を図るために情報共有を行い、一緒に浸水対策に取り組んでいきたい。

- ・ 由良地区では、京都丹後鉄道由良川橋梁の車窓からの景観や堤内地からのアイレベルでの景観を大切にしている。堤防が設置される場合には、堤防の位置、高さ、構造について、地域へ説明し理解を得る必要があるため、由良川水系河川整備計画の景観への配慮をお願いしたい。

### <京都府>

- ・ 京都府では、由良川の緊急対策事業等の整備に伴って、由良川に流入する支川で京都府が管理している河川の宮川・弘法川・法川・大砂利川・大谷川・相長川について改修を実施している。
- ・ 国と同様に、京都府でも危機管理型水位計の設置を行うこととしている。京都府全体では 62 カ所、由良川水系では 29 カ所であり、このうち中丹東土木事務所と中丹西土木事務所管内では 27 カ所について今年度末を目途に設置していく予定である。
- ・ また、排水ポンプ車については既に中丹西土木事務所に 1 台配備しているのに加え、新たに中丹東土木事務所で 1 台配備し 9 月 27 日より運用を開始している。

### <京都地方気象台>

- ・ 気象庁のホームページでは洪水警報の危険度分布を公開しており、この中で内水氾濫の危険度の判定も行っているが、その確認方法等を十分にまだ周知できていないのではないかと、また、表示方法がわかりにくいのではと考えている。
- ・ 関係機関の皆さんから意見を聞いてわかりやすい表示方法にできないかを検討し、引き続き危険度分布の利活用について周知を行い、実際に危険度が判定された場合には対象市町村等に対して解説をより一層強化していきたい。

### <福知山河川国道事務所>

- ・ 当事務所からは 3 点である。
- ・ 平成 30 年 7 月豪雨では、道路冠水により排水ポンプ車が現場に進入できなかったという課題があり、排水ポンプ車の前進配置とアクセス路に砕石やアスファルト舗装等を行い、排水ポンプ車のアクセス性の確保・向上を図っている。
- ・ 樋門の操作員による操作の長期化という課題に対して、操作員を支援する体制を構築するとともに、操作員の待機場所や操作室の食料備蓄等、操作環境を整備することを現在進めている。
- ・ 由良川本川のきめ細やかな水位把握及び情報提供について、由良川において 8 月に危機管理型水位計を 4 箇所設置し、川の防災情報のホームページで情報を公表している。現在も引き続き、危機管理型水位計の増設を予定しており 10 月中に約 25 箇所設置する予定である。